

宮城県砂防ボランティア協会だより

第2号

平成20年6月14日(土)8時43分頃に発生した岩手・宮城内陸地震はMa7.2、栗原市の最大震度は6強を観測して県内の死者・行方不明者は18人に及びました。特に栗原市栗駒耕英の駒の湯温泉では、土砂崩壊生き埋めにより7名の方が亡くなりました。

あれから5年半が経過して、今年の秋には事業費21億円を要した耕英東地区での土石流・地すべり対策工事も完了する予定です。この工事跡地1.3haにはかつての広葉樹林を再生するとともに、震災で犠牲になった方々の鎮魂と地域の復興を図る”くりこま 絆の森植樹プロジェクト”が実施されます。

当協会は、この趣旨に賛同して宮城県土木部退職者の会(とんぼの会・清流会)、宮城県道路ボランティア協会、くりこま絆の森植樹プロジェクトチームとの協賛で10月23日(水)に植樹会を主催しました。

平成25年10月

宮城県砂防ボランティア協会 会長 堀 安義

1 役員名簿(平成25年度～平成26年度)

会長	堀 安義		
副会長	三上登志男	久喜 榮悟	
幹事	中川 淳	渡邊 律	小野寺信
	早坂 睦雄	千葉 芳則	板橋 勉
	狩野 力	平間 光雄	
監事	峯岸 雄一	菅野 實	
	事務局長	早坂 通夫	
事務局	高橋 正義	主藤 孝二	佐々木勉

発行元
〒 980-0811
仙台市青葉区一番町
2-10-17 仙台一番町ビル
株東京建設コンサルタント
東北支社
022(222)8887
FAX 022(224)1889
Email
shuto-k@tokencon.co.jp

2 植樹会開催までの歩み

H20岩手・宮城内陸地震被災地「栗駒耕英地区」植樹会 H25.10/23(水) 栗原市栗駒耕英

主催:宮城県砂防ボランティア協会

協賛:宮城県土木部退職者の会(とんぼの会・清流会)、宮城県道路ボランティア協会

くりこま絆の森植樹プロジェクトチーム(栗駒の自然を守る会)

今回砂防ボランティア基金事業と併せて、宮城県土木部退職者の会(とんぼの会・清流会)・2ボランティア協会(道路・砂防)からの協賛金を受けて実施することができました。

当日は鎮魂の雨が降りしきる中、砂防・道路ボランティア協会、植樹プロジェクトチーム、宮城建設、県庁OBを始め行政側からは宮城北部森林管理署・栗駒市・北部土木栗原地域事務所等から総勢80名が参加して、ブナ・ミズナラ・ヤマグリ・ヤマモミジ等400本を植樹しました。

植樹会終了後に山田栗原地域事務所企画担当技術次長から耕英東砂防激甚災害対策特別緊急事業、栗原市から栗駒山麓ジオパーク構想、宮城建設から駒の湯温泉地域復旧工事についてそれぞれ説明があり工事現場を見学しました。なお、栗原市は2015年のジオパーク申請に向けて今後様々な活動を展開するとのことです。



堀 宮城県砂防ボランティア協会長



尾形 栗原地域事務所長



飯田 宮城北部森林管理署長



菅原 くりこま絆の森植樹プロジェクトチーム代表





菅原代表 松本会長 堀会長 高田会長 武地会長

植樹会準備作業 H25.10/18(金) 栗原市栗駒耕英
くろこま絆の森植樹プロジェクトチームと当協会の有志により2mピッチに植樹位置の印を設置しました。



生態学的混播・混植法 H25.10/10(木) 栗原合同庁舎・栗原市栗駒耕英
宮城県砂防協会主催による講習会には、当協会会員19名を始め6市町、宮城県から計39名が参加しました。(独)寒地土地研究所特別研究監 吉井厚志氏、北海道工業大学大学院工学研究科教授 岡村俊邦氏による講義を受けて午後から耕英地区で植栽をしました。当植樹法は近隣の色々な種類の樹木から種を集めポットで発芽させ10種類を同心円状に植えて、数10年後に1~2本が残って森を形成させる方法で今回は220本を植樹しました。

